

平成27年度 第4期 第10回「耕人塾」

[日 時] 平成27年11月14日(土) 18:30~20:30

[場 所] 石巻専修大学5号館 3階学生ホール

[テーマ] 『おもてなし』とは

[講師] 石田邦子氏(表千家教授)

[使用したテキスト]

・『耕人』H27 7.pdf(塾長から塾生へのメッセージ:第7号)

[活動内容詳細]

講話「おもてなし」とは

講師 石田邦子氏(表千家教授)

1 茶道体験【60分】

(1) 茶道のお点前披露

塾生はじめ参観者すべてが、静かに見入っていた。先生のお話も静かに聞き入り、一言一言を大切に聞き入った。「お先に頂戴いたします」「お点前頂戴いたします」「もう一服いかがでしょうか」「十分頂戴いたしました」といった言葉を復唱するときも、全員大きな声で揃えて復唱した。飲み終えたときに口をつけたところを指でふき、懐紙で指をふくことや畳に座るときの位置、1畳を何歩で歩くかといった動作の意味や仕方についても学んだ。

(2) お茶を飲む(塾生・保護者が体験)

茶道体験は、講師の先生に通りの説明をしていただいた後はじめられた。実際に、お茶の体験する場面では、教えていただいたことに気を付けて、一つ一つの動作に心を込めて行った。

みんな気を引き締めて緊張しているように見えた。

2 講話「おもてなし」とは【20分】

お茶の全国大会で宮崎に行ってみりました。花の色も緑もきれい。野球のキャンプなど、ほかに来ている方も多し。神話の国「高千穂」に行ってみたくて、バスで四時間半かかり山深いところへ向かっていく。神話の国らしくしめ縄が一年中飾ってある。茶葉も違う。三日間ホテル。四日目、体にやさしい日本人の食事はこういうものかというものに出会った。うれしかった。食事の後、竹の筒に手紙を結び、お夜食にどうぞと蒸しパンが振る舞われる。みんな手作り。お米も梅も油味噌ももたせてくれる。感激しました。

みなさんが考えるおもてなしとは?お茶を差し上げました。お点前を見せました。正面で90度にずらすというお点前は、正面に口をつけないというのは、作った方への敬意で、480年続いている表千家の作家への感謝の表れです。お茶を通して、作り方に興味を持ち、「お菓子はどこの?」と関心を寄せる。私流の「おもてなし」とは、すべてのものに感謝するということです。今日の私と皆さんの出会い。またお点前をする時の次への自信となっていく。

「自分の心を師となす」どんなことも決めるのは自分。自分が師。決めるということは師。師になるために自分を磨く。ここで学習することも一つ。利休の言葉の中に、「その道に入らんとする心こそ我が身なり」というのがあります。自分で決めたことはやり遂げましょう。いろいろなことを吸収して経験して一生勉強を続け、「これをやりたいと思う気持ち」を強く持つことが、自分が決める。決めるのは自分ということ。おもてなしとは、相手のことを分かってあげる。常に感謝の気持ちを持つことです。

3 班別討議【10分】

(1) 講師が伝えたかったことについて班別討議

(2) 班としてのまとめ・発表準備

「おもてなし」について、各班で交流し合い、自分の考えをまとめていった。

4 全体学習【10分】

5 次回予告【10分】

(1) 平成27年度のまとめと発表に向けて

(2) 第4期修了証授与について

早めに集まった指導委員等にお茶が振る回れる



いよいよ塾生たちが挑戦!



講師の石田邦子先生



お弟子さんから一連の動きを学ぶ





一生懸命、準備をしてくださるお弟子さん



講話 「おもてなし」とは



班別会議で学びを振り返る

